

3-2. 図書選定購入事業

3-2-1. 事務事業評価シート

事務事業評価シート

H 27 年度

| | | | | | | |
|-------|---------------|--------|----|-----------------------|------|--------|
| 事務事業名 | 図書選定購入事業 | | | 総合計画 個別施策 コード/名 | 2414 | 図書館の充実 |
| 新規・継続 | 継続 | 事業開始年度 | H1 | 担当課 | 図書館 | |
| 根拠法令等 | あり 図書館法、社会教育法 | | | | | |

1. 事業の概要

【事業内容】

町民が求める資料や情報への要求に応えるため、積極的かつ公平な資料情報の収集、整理、保存、提供、発信により、町民一人一人の生涯にわたる様々な活動と課題解決を支え、暮らしに役立つ、地域に根ざした図書館サービスを行う。

【成果目的】

町民の生涯学習を支援するため、情報発信拠点として、優良な資料(図書・雑誌・逐次刊行物など)を購入し利用者に提供する。

2. 活動指標と成果指標

| 指標名 | 単位 | 説明 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|------|----|----------|-------|-------|-------|-------|
| | | | 目標 | 目標 | 目標 | 目標 |
| 活動指標 | 冊 | 一般書の選書冊数 | 5,800 | 5,800 | 5,000 | 5,000 |
| | | | 3,854 | 3,321 | | |
| 成果指標 | 冊 | 一般書の購入冊数 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 |
| | | | 1,965 | 1,563 | | |
| 活動指標 | 冊 | 児童書の選書冊数 | 5,800 | 5,800 | 5,000 | 5,000 |
| | | | 3,854 | 3,321 | | |
| 成果指標 | 冊 | 児童書の購入冊数 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 |
| | | | 1,965 | 1,563 | | |

3. 事業費の内訳とコスト分析

(1) 歳出内訳

| H25年度(決算) | H26年度(決算) | H27年度(予算) |
|------------|------------|------------|
| 14,473,038 | 14,761,239 | 14,963,000 |

(2) 歳入

| H25年度(決算) | H26年度(決算) | H27年度(予算) |
|-----------|-----------|-----------|
| 0 | 0 | 0 |

歳入内容:

| [種別] | [金額] | [内容] |
|-------|------------|--------------|
| 図書購入代 | 14,761,239 | 図書及び視聴覚資料購入代 |
| 決算内訳 | | |

(3) 人件費(時間)

| | H25年度 | | H26年度 | |
|----------|-------|---------|-------|---------|
| | 時間数 | 人件費概算 | 時間数 | 人件費概算 |
| 正職員(時間内) | 311 | 544,561 | 152 | 266,152 |
| 正職員(時間外) | 2 | 4,378 | 3 | 6,566 |
| 臨時職員 | | 0 | | 0 |
| その他 | | | | |
| 合計 | 313 | 548,939 | 155 | 272,718 |

(4) 町民1人当たりコスト (事業費+人件費-歳入)

| | H25年度(決算) | H26年度(決算) |
|---------|------------|------------|
| 事業費 | 14,473,038 | 14,761,239 |
| 人件費 | 548,939 | 272,718 |
| 小計 | 15,021,977 | 15,033,957 |
| 歳入 | 0 | 0 |
| 計 | 15,021,977 | 15,033,957 |
| 町民1人当たり | 約 313円 | 約 313円 |

4. 事業の方向性と取組方針

▼担当者記入

2~3の考察と課題、改善計画

①図書選定については、社会情勢等を考慮しながら利用者のニーズに合った資料構成を考えて、選定し購入していく。

②文科省の通知や日本図書館協会の図書館整備目標基準を参考にしながら、図書館資料選定の充実を図っていく。

▼課長記入

| 【方向性・業務改善】 | 理由 |
|------------|---|
| 将来的な方向性 | 町民の要望に沿った、町民図書館に相応しい適切な蔵書構成に近づいていけるように、数年後のことも考慮しながらこの事業を現状の規模で継続していく。 |
| 現状の規模で継続 | |
| 業務改善 | 予備選書から購入決定までの作業は、スムーズにしているため、今のところ大きな改善の必要はない。ただし、リクエスト本の選書については、その選書過程を考えていく必要はある。 |
| 改善の必要なし | |

【取組方針】 ※いつまでに、どんな状態にするか。そのために今年度は何をするか。

・蔵書数に関しては、年度末までに日本図書館協会の目標基準に近づけていく。また、種類や分類ごとの冊数を的確に把握して、図書選書に生かすようにする。そこで、正確な数値を出すためにハンディターミナルを用いた蔵書点検を行うこと。児童書の選書に関しては、今年度、読書の関するアンケート調査(代表学年抽出方式)を実施し、その結果を生かしていきたい。

3-2-2. 委員会における評価と指摘事項

※分数は全委員のうち妥当であると評価した委員の数を示す

※「○」は「妥当である」、「×」は「妥当でない」を示す

| 委員会としての評価 | | 補足 |
|----------------|---------|---|
| 目的に対する手段 | 6/6 → ○ | |
| 活動指標 | 4/6 → ○ | |
| 成果指標 | 5/6 → ○ | ・活動に対する成果とすべき。例：購入図書に占めるリクエストの割合 |
| 方向性 | 4/6 → ○ | ・図書館サービス事業と統合すべき。 |
| 業務改善 | 2/6 → × | ・リクエスト数を増やし、町民ニーズに応える。 ・購入した本への満足度を把握してはどうか。 ・透明性のため、選定作業に外部委員を導入してはどうか。 ・貸出件数増のための改善を要する。 |
| 取組方針 (改善方針) | 5/6 → ○ | ・協会目標にこだわらず、特徴を出す。 ・E-Book の導入も検討する。 |

ヒアリングにおける主な指摘事項

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・図書の選定にあたって選定委員会のような形で外部の委員の目を導入する必要性はないか。 ・シートの歳出の欄に図書及び視聴覚資料購入代とあるが視聴覚資料(CD・DVD)は別事業だから抜くべきでは。 ・購入冊数は図書館側の要素だけで達成できるもの。住民の意思がどれだけ反映されているか、年齢層はどうかという視点もある。 ・活動指標と成果指標が同じ。新規の購入冊数が全体から比べると少ない。実績としても5万人以下の上位の市町村から比べて半分。貸出数を増やす施策としての図書選定活動があっても良いのでは。 ・蔵書冊数を増やしても貸し出しを増やさなければ何もならない。図書館サービス事業に入る内容かもしれないが、せっかく買うのならたくさん使ってもらうことが必要。 ・貸し出す事業が他の事業になっていては図書選定購入に対するフィードバックが分からない。学校給食センターの事業もそうだが、町全体でも事業が多すぎる。細分化しすぎていて、評価までつながっていない。事業の統合も必要。 ・図書の選定だけの事業だから、選定の目標しか設定できず、良い目標が立てられない。 ・目標の設定で、目標基準の表(上位の市町村)を参考にするのは良いが、年間5,800冊という目標を達成したことは無いだろう。例えば阿見町では蔵書では足りなくても貸出数に力を入れるなどの方針があるなら、この表に合わなくても良い。 ・本来ならば、選定の適性さが目標になるが、難しい。例えばリクエストの満足度でも良いかもしれない。 ・町民のニーズをどうつかむのか。リクエストを重視しても良い。1人1冊までに限らなくても、数冊、十冊くらいは良いと思う。月ごとに限らなくても良い。リクエスト数が増え、そこから選定し、リクエスト満足度が上がるとなれば良いと思う。 ・年間3,000冊くらい買っていて、リクエストが450冊くらいしか買っていないというのはどうか。 ・Eブックも検討すべきでは。今の子どもたちは生まれてすぐタブレットを使えて、それが良いか悪いかは別として、時代に合った図書館整備というのは必要。逆に音楽CDは必要性が薄れているかもしれない。 |
|---|

その他の意見(ヒアリングシートにおける自由記載)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・町民にとって利用しやすい図書館になって欲しい。 |
|--|

3-2-3. 担当課による対応方針

平成27年度 外部評価結果に対する対応方針

| | | | |
|-----|----------|-----|----------|
| 事業名 | 図書選定購入事業 | 担当課 | 教育委員会図書館 |
|-----|----------|-----|----------|

1. 目的に対する手段

| | | | | |
|----------|---------|------------------------------|-----------|----|
| 目的に対する手段 | 外部評価結果 | 妥当である | 事業内容の見直し: | 無し |
| | 担当課の考え方 | 妥当であるとの評価を得たため、現行の事業内容を継続する。 | | |

2. 指標

| | | | | | | | | |
|---------|------------------------------|---------|-----------|----------|----------------------|-------|-------|-------|
| 活動指標 | 外部評価結果 | 妥当である | 活動指標の見直し: | 無し | ※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映 | | | |
| | 現行 | 一般書選書冊数 | 冊 | 一般書の選書冊数 | H25 | H26 | H27 | H28 |
| | | 児童書選書冊数 | 冊 | 児童書の選書冊数 | 5,800 | 5,800 | 5,000 | 5,000 |
| | 来年度 | 一般書選書冊数 | 冊 | 一般書の選書冊数 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 |
| 児童書選書冊数 | | 冊 | 児童書の選書冊数 | 5,800 | 5,800 | 5,000 | 5,000 | |
| 担当課の考え方 | 妥当であるとの評価を得たため、現行の事業内容を継続する。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---------|---|-----------|--------------|-----------|----------------------|-------|-------|-------|
| 成果指標 | 外部評価結果 | 妥当である | 成果指標の見直し: | 有り | ※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映 | | | |
| | 現行 | 一般書購入冊数 | 冊 | 一般書の購入冊数 | H25 | H26 | H27 | H28 |
| | | 児童書購入冊数 | 冊 | 児童書の購入冊数 | 5,800 | 5,800 | 5,000 | 5,000 |
| | 来年度 | リクエスト購入冊数 | 冊 | リクエスト購入冊数 | 2,000 | 2,000 | 2,000 | 2,000 |
| 図書貸出冊数 | | 冊 | 一般書・児童書の貸出冊数 | 634 | 588 | 600 | 630 | |
| 担当課の考え方 | 評価は「妥当である」だが、活動に対する成果とするべきであると指摘を受けたため指標を変更する。数値については、2年目以降実績に応じて見直す。 | | | | | | | |

3. 事業の方向性

| | | | | | | |
|------|---------|---|---------|----------|----------------------|---------|
| 方向性 | 外部評価結果 | 妥当である | 現在の方向性 | 現状の規模で継続 | 方向性の見直し (見直し後の方向性) | 無し |
| | 担当課の考え方 | 妥当であると評価を得たが、図書館利用者のニーズをいかに知ることが重要であると指摘があったため、他事業の図書館サービスとの統合も踏まえて検証した上で方向性を判断する。 | | | | |
| 業務改善 | 外部評価結果 | 妥当でない | 現在の業務改善 | 改善の必要なし | 業務改善の見直し (見直し後の業務改善) | 有り 一部改善 |
| | 担当課の考え方 | 図書館選定に関しては、適宜、図書館協議会委員の意見を参考にしながら行っていく。また、より一層町民ニーズに応えられるような各層の利用者を対象にしたサービスを充実させていく。 | | | | |

4. 取組方針

| | | | | |
|-------------|-------------|--|----------|----|
| 取組方針 (改善方針) | 外部評価結果 | 妥当である | 取組方針の見直し | 無し |
| | 取組方針 (改善方針) | <p>現在の取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 蔵書数に関しては、年度末までに日本図書館協会の目標基準に近づけていく。また、種類や分類ごとの冊数を的確に把握して、図書選書に生かすようにする。そこで、正確な数値を出すためにハンディターミナルを用いた蔵書点検を行うこと。児童書の選書に関しては、今年度、読書に関するアンケート調査(代表学年抽出方式)を実施し、その結果を生かしていきたい。 <p>【評価結果を踏まえた今後の取組方針】</p> <p>図書館サービスの基本である貸出冊数においては、町の総合計画である図書館の年間貸出冊数の指標が達成できるようにする。そのために、所蔵図書の新陳代謝を図り、所蔵内容を充実させながら町民ニーズ(今後、子ども読書活動推進計画作成のためにアンケート調査を実施し把握する。)に応えられる図書館選定に努めていく。また、町民ニーズや図書館協議会委員の意見を参考にし、購入図書の利用拡大を図るためのPRも工夫する。電子書籍については、近隣に導入した市町村の図書館の状況を参考にしながら検討していく。</p> | | |